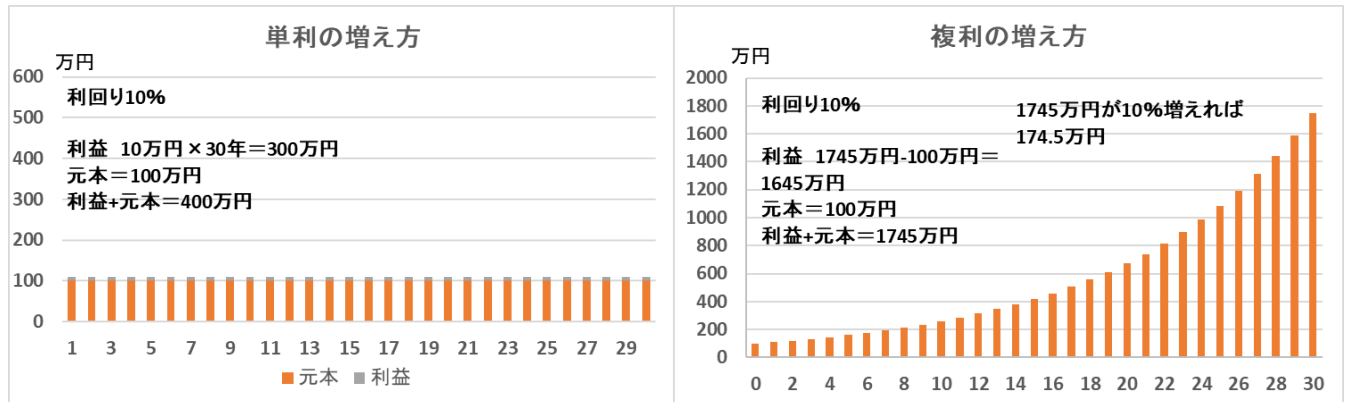


ATTENTION

複利効果とは、こういうものだ！



よく資産運用は、複利効果を生かせといひます。実際に、世界最高の投資家ウォーレン・バフェットは、早くから複利効果を最大限発揮する運用を意識してきたといわれています。しかしながら、感覚的にわかっていても、実際にそれを実行に移すかという、多くの人はそうやっていません。数字で見ると、その効果ははっきりとわかります。この2つのグラフの左のグラフは、単利すなわち多くの人がやっているように、1年で利益を確定するやり方。利回り10%を確定できれば、多くの人は「御の字」と思うでしょう。そしてそれが毎年30年続けば、大変なことと感ずるでしょう。その利益の合計は元本100万円として300万円。元本は変わらず100万円です。そして残念ながらこの300万円は、使ってしまうというリスクを負っています。また毎年10%取れるとは限りません。さてこの元本100万円を10%複利で回すとどうなるか、30年後には元本が1745万円になります。その間の利益の合計は1645万円。単利300万円、複利1645万円と大きな違いになりました。しかもこちらは丸まる残っています。これが複利なのです。また面白いことは、単利ですと課税後利回りは8%ですが、複利で30年後に売却すると、課税後利回りは9.2%です。これが複利による課税繰り延べ効果。30年後からでも、単利では100万円が10%増えると、いまだ10万円増えますが、複利では、この1745万円が10%増えれば174.5万円増えることになります。そしてそれから年々増える額は大きくなります。いかがですか。恐ろしい違いです。資産運用の秘訣は、今の楽しみより、後の幸せということです。

COLUMN

自分の気持ちに惑わされるな。

-内なる自分を克服する-

私たちは日々、頭の中で自分自身に語りかける「内なる声」とともに生きています。その中でも厄介なのが、「自分には無理だ」「失敗したら評価を落とす」といった否定的な独り言です。この本で、この内なる批判の声は本当の自分ではなく、過去の経験や恐れから生まれた“心理的な足の引っ張り屋”のような存在だと説明します。つまり、その声は事実でも真実でもないのです。

内なる批判者は、私たちが傷つけないように守ろうとしているつもりで、結果的に挑戦や成長を妨げます。失敗を過度に恐れさせ、行動を先延ばしにさせる。その影響は仕事の生産性だけでなく、人間関係や自己肯定感にも及びます。放置すれば、心身のストレスや慢性的な不安につながることもあります。

大切なのは、この声を力ずくで消そうとすることではなく、否定的な思考が浮かんだときに「それは事実か」「証拠はあるか」「親しい友人なら何と言うか」と問い直し、より現実的で前向きな言葉に置き換えていくのです。そして、小さな行動を積み重ね、自分の強みや経験に目を向けることで、内なる批判者との関係は徐々に変わっていきます。自分の心を敵にするのではなく、味方に変えていく。その姿勢こそが、持続的な成長と成功につながります。

「大変だ、無理だろう」と思うと、どうしてもそのままになりがちです。「いや待て、こう考えたら、どうだろう、もう少しやってみよう」と問い直す。「ものは考えよう」とはこのことです。

Silence Your Inner Critic-Damon Zahariades, The Art Of Productivity

MARKET

| (1月末) | (12月末比) |
|-------------|-----------------------|
| 日経平均 | |
| 53,322.85円 | +2,983.4円 (+5.93%) |
| NYダウ | |
| 48,892.47pt | +829.18pt (+1.73%) |
| 米ドル | |
| 154.85円 | -1.95円 (-1.24%) |

私の書棚より

お客様を本当に“所有”したいなら、満足するお客様を越えて、狂喜するファンを作らなければならない。

『raving fans!』Ken Blanchard

邦題 -1 分間顧客サービス
— 熱狂的ファンをつくる3つの秘訣

「受託者責任」が空文化した国 — 日本社会の構造的ゆりみを考える

1. 憲法前文が示す「受託者責任」と現実の乖離

一票の格差是正のため、長年司法の場で闘っている升永英俊弁護士が主張されているように、日本国憲法の前文は、国会議員を「国民の代表」と位置づけ、国民からの負託に応える存在として明確に描いています。こう謳っています。「国政は、国民の厳粛な信託によるものであつて、その権威は国民に由来し、その権力は国民の代表者がこれを行使し、その福利は国民がこれを享受する。」これは、議員が国民の利益のために行動するという、いわば受託者責任の宣言です。しかし現実には、一票の価値が選挙区によって大きく異なり、一票の格差が3倍を超えるような状況が放置され、国民の意思が等しく政治に反映されているとは言い難い状況です。逆に議員の利益を優先している状況です。升永弁護士が指摘する通り、憲法前文が掲げる理念は、実質的には空文化していると言わざるを得ません。

2. 米国で根付く「受託者責任」と民主主義の基盤

対照的に、米国では受託者責任の概念が政治や法律、金融の領域に深く浸透しています。政治の世界では「one person, one vote (一人一票)」の原則が厳格に守られ、議員は選挙区民の利益を代表する受託者としての責務を強く意識しています。制度的にも司法判断にもこの理念が貫かれ、国民の一票の価値は等しく扱われています。日本が形式的には同じ理念を掲げながら、実態が伴っていない状況とは大きな対照をなしています。受託者責任の徹底が、社会に規律をもたらし、誰でもチャンスを与える土壌を醸

成しているといえます。それが、現在の米国の隆盛につながっているといってもよいでしょう。

3. 金融分野における「顧客本位」の掛け声倒れ

日本における受託者責任の欠如は政治だけの問題ではありません。金融の世界でも同じ構造が見られます。金融庁は「顧客本位の業務運営」を掲げ、金融機関に受託者責任の徹底を求めています。現場では依然として業者側の利益が優先され、顧客の利益がこの次になるケースが主流です。理念は立派でも実態が伴わないという点で、政治の世界と驚くほど共通しています。ここにも日本社会に根付く建前と本音の乖離が露呈しています。これが、金融の世界でも、大きく米国に後塵を拝する状況を作っているといえます。

4. 日本社会に欠けている「骨」と規律

結局のところ、日本は米国から与えられた憲法の理念を理解したつもりで受け入れたものの、その魂を社会制度として根付かせる努力を十分に行ってこなかったのではないのでしょうか。建前は理解しているものの実態が伴わず、あいまいさを許容する文化が制度の厳格な運用を妨げ、社会全体の規律を弱めています。今こそ、憲法前文に込められた受託者責任の精神をもう一度かみしめ、政治、行政、金融を含む社会全体が骨を取り戻す必要があります。理念を掲げるだけではなく、それを実態として運用し、国民の信頼に応える仕組みを再構築することが求められています。

まかせて安心、資産運用のホームドクター

- 大切なお金を間違いのない方法で運用しているのか、心配になることはありませんか。
- 退職後のセカンドライフを、お金の心配なく、ゆとりを持ってお過ごしですか。
- 仕事が忙しくて、なかなか運用まで手が回らないということはありませんか。
- 銀行や証券会社が勧めるままに、株や投資信託を購入していませんか。

金融商品の中身や手数料がどうなっているか、きちんと把握していますか。

びとうファイナンシャルサービスは、金融機関から完全独立のFP・資産運用アドバイザーです。その強みを生かし、お客様に、客観的で、公正・中立なアドバイスを提供しています。手数料が高く売りやすい商品売るのではなく、お客様にもっとも適した金融商品やお客様にベストのアドバイスを提供しています。

びとうファイナンシャルサービスは、お客様の目標や夢の実現のため、40年を超える長い経験と深い専門知識、高い倫理観をもとに、お客様の利益のみに目を向けたサービスを提供しています。たとえるなら、多くのお客様の人生という航海で、無事に目的地に到着する大型客船であり、いつもお客様の資産運用という面で健康管理をするホームドクターです。



びとうファイナンシャルサービス
代表 尾藤 峰男
公認投資助言者(RIA)

びとうファイナンシャルサービス 公式HP

<http://www.bfsc.jp>

あなたの資産運用を成功に導くメルマガ！

お申し込みは <http://www.bfsc.jp/mailmagazine/>

発行者：びとうファイナンシャルサービス

代表取締役 尾藤峰男

電話：03-6721-8386

携帯：070-5567-3311

電子メール：info@bfsc.jp